

会 議 要 録

会 議 名	第 2 回本庄市子ども・子育て会議
開 催 日 時	平成25年11月29日（金） 13時00分開会
開 催 場 所	本庄市役所 6階大会議室
出席者氏名	落合委員長、谷田委員、内野委員、高橋委員、宮塚委員、中原委員、 間庭委員、岩田委員、澁谷委員、富沢委員、間仲委員、上野委員、 田邊委員
欠席者氏名	日向副委員長、福島委員、八本委員、加藤委員
事務局職員	駒沢部長、中山課長、加藤補佐、矢嶋補佐、高田補佐、斉藤補佐、 下垣主査、覚方主任、ワイルマンコンサルティング 堀澤担当
会議次第	<p>1 . 開会</p> <p>2 . 委員長あいさつ</p> <p>3 . 委員委嘱</p> <p>4 . 議事</p> <p>（ 1 ）会議の運営について</p> <p>（ 2 ）次世代育成支援行動計画（後期）実施状況（平成 24 年度）について</p> <p>（ 3 ）ニーズ調査結果概要について</p> <p>（ 4 ）区域割について</p> <p>（ 5 ）その他</p> <p style="padding-left: 2em;">・次回日程</p> <p style="padding-left: 2em;">・その他</p> <p>5 . 事務連絡</p> <p>6 . 閉会</p>
会議資料	<p>1 . 資料 1 本庄市次世代育成支援行動計画（後期）実施状況（平成24年度） について</p> <p>2 . 資料 2 - 1 ~ 2 - 6 区域割クロス集計</p> <p>3 . 資料 3 - 1 , 3 - 2 本庄地域の通学区図、児玉地域通学区図、区域割り （案）1 ~ 5、別紙 1</p> <p>資料 3 - 3 第 2 回子ども・子育て会議区域について</p> <p>資料 3 - 4 ~ 3 - 6 教育・保育施設と地域子ども・子育て支援事業</p>

発 言 者	議 題 ・ 発 言 ・ 結 果
事務局 (中山課長)	<p>本日は、ご多用のところ会議にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、第2回本庄市子ども・子育て会議を開催させていただきます。</p> <p>はじめに、落合委員長からごあいさつをお願いいたします。</p>
委員長	<p>第2回目の本庄市子ども・子育て会議を進めさせていただきます。</p> <p>子どもの様々な環境をどう捉えるか非常に難しくなっていて壊すのは簡単ですが、再生や新たに築くことは非常に難しい。子ども・子育て、特にこれからの本庄市は埼玉あるいは群馬の中で、子育てでリードできる位置になってくるか、それが今回の会議にかかってくるという思いを持ちながら色々な意見を出していただいて、それを組み立てながら、本庄市はこういうことをやったのかと残るような施策提言をしていきたいと思っておりますので、慎重審議よろしく申し上げます。</p>
事務局 (中山課長)	<p>本日の会議の成立についてご報告いたします。4名の方から欠席の連絡をいただいております。17名中12名の出席をいただき過半数を超えていますので、定足数を満たしておりますことをご報告いたします。この後の議事につきましては、落合委員長に議長になっていただきまして進行をお願いします。</p>
委員長	<p>議事に入ります。</p> <p>(1) 会議の運営について事務局ご説明願います。</p>
事務局 (高田補査)	<p>本庄市子ども・子育て会議条例第8条におきまして、会議の運営に必要な事項は委員長が会議に諮って定めるとあります。本日は会議を傍聴される方への資料の配付につきましてお諮りさせていただきます。前回会議の終了後に傍聴された方より、次第と資料を提供してほしいという要望がありました。事務局としては会議終了後に議事録の公表も含めまして委員の皆様にご確認をいただいた上で公表したいと考えております。会議の次第は全体を把握していただくためにお配りしても良いと考えております。</p>
委員長	<p>ただ今、傍聴人への資料配付案につきまして事務局よりご提案がありましたらご質問ご意見等ございますか。</p>
委員長	<p>それでは異議なしということで傍聴人には会議次第を配布することで進めさせていただきます。</p>
委員長	<p>(2) 次世代育成支援行動計画(後期)実施状況(平成24年度)に</p>

<p>事務局 (高田補佐)</p>	<p>ついて事務局ご説明願います。</p> <p>それでは、議事(2)次世代育成支援行動計画(後期)実施状況(平成24年)についてご説明申し上げます。</p> <p>この次世代育成支援行動計画は次世代育成支援対策推進法に基づく市町村行動計画として位置付けられています。本市の次世代育成支援の方向性や目標、及び具体的な施策・事業を展開し、他の各種計画と連携・整合を図り策定しています。</p> <p>子ども・子育てに関しましては、子ども・子育て支援法に基づく国の基本方針に即して、5年を1期とする教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の提供体制の確保等の業務を円滑に実施するための「子ども・子育て支援事業計画」を定める必要がありまして、皆様の意見をいただきながら「本庄市子ども・子育て支援事業計画」を策定するというものです。次世代育成支援行動計画をすべて包含するものではありませんが、次世代育成支援行動計画は平成26年度をもって終了します。</p> <p>本市では、次世代育成支援行動計画を引き継ぐ次の計画が本庄市子ども・子育て支援事業計画ということになります。</p> <p>本会議の議題にもありますが、本庄市次世代育成行動計画第3章の「現状の課題と今後の取組み」で掲げた各課で取り組んでいる事業の実施状況を把握し、今後の計画策定に反映したいと考えていますのでよろしくご説明いたします。</p> <p>具体的な内容については下垣主査よりご説明いたします。</p>
<p>事務局 (下垣主査)</p>	<p>資料1 本庄市次世代育成支援行動計画(後期)実施状況(平成24年度)及び別紙1に基づいて説明。</p>
<p>委員長</p>	<p>地域子ども・子育て支援事業 ~ の事業はこれから子ども・子育て会議で検討する大きな柱になるのか、今までの後期行動計画の内容がこのようになっているのか確認をお願いします</p>
<p>事務局 (高田補佐)</p>	<p>ご説明しました地域子ども・子育て支援の13の事業は次世代育成支援行動計画(後期)中に含まれている事業です。 、 、 は新規ですので、これを新たに加えてご検討いただければと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>既存で展開しているものも、すでにあるということ、それを踏まえて 、 、 を加えて新たに検討していくというスタンスでよろしいですね。前回配られた資料、先ほどの説明につきましてご意見・ご質問等がございましたらお願いします。</p>
<p>岩田委員</p>	<p>以前、本庄市次世代育成支援行動計画の評価をしたのは前期についてですね。</p>

事務局 (高田補佐)	<p>児童福祉審議会のことでしょうか。その際の内容と同じです。前は1年半ほど前に行いまして、平成22年度の実施状況だと思います。内容としますと、前期計画と後期計画がありまして、後期計画になります。</p>
岩田委員	<p>私の記憶では、今年度に入って5月か6月だったと思います。次世代法の評価委員会のようなもので、内容的には同じものでしょうか。</p>
事務局 (高田補佐)	<p>今年の2月と記憶していますが、その時に児童福祉審議会の場において、本庄市次世代育成支援行動計画の進捗状況をご報告いたしましてご意見をいただいた経緯があります。22年度と申し上げましたが前年度の23年度だったと思います。</p>
岩田委員	<p>思い違いで前年度の末でした。その時に要望して、別紙1の4ページの一時預かりと の延長保育で内容が似てはいますが、幼稚園でも預かり保育をしております。本来であれば、子育て支援の対象になるべきものではないかと、幼稚園で行っている預かり保育も数としては出していくので良いのではないかという意味で、その時に数は算定しようということになったと記憶しているのですが、それはこの中に反映されているのでしょうか。</p>
事務局 (高田補佐)	<p>岩田委員よりご提案をいただきまして、その時にお答えいたしましたのが次世代育成支援行動計画を定めたときに、設定目標があり、その中に幼稚園で行っている一時預かり事業は当初から入っていなかった経緯がありまして、計画には反映されませんでしたという旨のお答えをしました。この計画が26年度まで引き継がれることとなります。新しく子ども・子育て支援事業計画を策定する中で、色々ご意見をいただきながら反映すべく検討願えればと思います。</p>
岩田委員	<p>基準に合わないので、今までの計画に入れられないということなのでしょうか。</p>
事務局 (高田補佐)	<p>次世代育成支援行動計画を策定するときに、計画の中に反映されなかった事業でしたので、現在、取組や実績に反映されていないということです。これからの計画には反映すべき事業だと思っていますのでよろしくお願いします。</p>
岩田委員	<p>次世代育成支援法の時も厚労省の基準が決まっているので入れてもらえなかったのですが、前回のときは市民とすれば保育所で遅くまで預かってもらえるのと、幼稚園で遅くまで預けているのは市民とすれば同じことで、基準とは違うけれども幼稚園の一時預かりも利用者数も出してほしいとお願いしたのですが、今の回答では前と同じで先送りされて、前の会議はどういう意味があったのかなと思います。</p>

事務局 (中山課長)	本日お渡ししました資料は、あくまで現行の次世代育成支援行動計画(後期)の実施状況をお示したもので、幼稚園の一時預かり等の数値はこれから把握させていただき、皆様に追加の資料ということで参考にお示しすることでいかがでしょうか。
岩田委員	加藤補佐が扱っていただいたものが載るわけですね。
事務局 (加藤補佐)	先週の調査は、27年度からの事業計画のデータです。
委員長	今のお話は、事項の項目になりまして混乱してしまいます。岩田委員は、この会議の前の段階のことを明確にしておきたいという要望かと思えます。この子ども・子育て会議で、事前の状況がしっかりと了解を取らないまま進むことは、同じことを繰り返すことになりますので、この後10分間で岩田委員と事務局でしっかり確認をしてください。
事務局 (中山課長)	次世代育成支援行動計画が5年間の行動計画として平成21年度に、次世代育成支援行動計画(後期)の策定時に審議委員として岩田先生にご参加いただいたと思います。その時に幼稚園関係の数値が入らなかったことは前回ご意見をいただきました。5年間の計画ということで毎年の進捗状況を報告しているものでありまして、この計画に幼稚園の部分を追加したりはできないことから、前回もお話をさせていただきましたが、この新しい子ども・子育て会議において27年度からスタートする新しい計画に幼稚園の関係は盛り込んでいきたいと思いますとお話ししたと記憶しております。現行の計画は直すという話ではなく、これに加えて同じような形で、現行幼稚園が行っている一時預かり等の実績を調べ、これから追加資料という形でお示しする提案でございます。
岩田委員	そのとおりです。実は次世代育成支援行動計画のときもニーズ調査の段階からこういう問題があるのではないかと言いましたが、厚労省の基準にないということで入れてもらえませんでした。2月の評価の段階でいくつかあったと思いますが、一時預かりということで、市民からすれば、幼稚園でも保育園でも長い時間みてもらえる体制があるということがわかることが、市民から見て子育て支援の面から見て意味があるのではないか。そういう意味で基準にないから数に入れませんかというのではなく、数だけでも出すことに意味があるのではないかと言う発言して、幼稚園でもこういう利用者数がありますということでは可能です。というお話をさせていただいたと記憶しています。
事務局	今回の資料を出すときにこの資料に書き加えてお出しするべきだ

(中山課長)	ったと思うので、調査をさせて頂いた上で資料を直させていただきます。
間庭委員	保育園の立場からですが、一時預かりと延長保育事業について岩田委員はどのように理解されていますか。教えていただければと思います。
岩田委員	保育園の一時預かりは、病気等の時の一時的な預かり、延長保育は夕方7時までとか、朝6時からとかと理解しています。幼稚園は2時とか2時半でおしまい、その後は何もないと一般的に理解されています。そういうことだけではないということで、預かり保育の数で示していけるのではないかという観点から申し上げます。
間庭委員	このポイントは時間だと思います。保育園でも11時間を超えないと適用になりません。幼稚園でも11時間を超えてやっている園があれば新しい子育て会議で検討していけばいいと思います。
岩田委員	確かに11時間という基準があります。その基準を市民が理解して延長保育の言葉が使われていけばいいのですが。
間庭委員	このような事業は補助金とかの予算の関係があって、行政側の視点での解釈が基本になっていると思うので該当するところで事業として適用されると思います。
岩田委員	数を出すことで幼稚園にも補助金がほしいというわけではありません。幼稚園で夕方6時ぐらいまではやっている園が本庄市の子育て支援事業として捉えられるのかということです。
間庭委員	あとは、制度的なもので、厚労省、文科省の今までの経緯のずれが、摺合せの段階でできているのかなとは思いますが、それは今後の課題として整理していくものと思います。
委員長	幼保一元化の問題で、現在政権が変わって棚上げ状態となっています。子ども・子育て会議で何をしなければならないかという、最終的に子どもたちをどう扱うか、幼保といった部分を本庄市が一元化して捉えていけるのか。そのへんを課題として今後検討していきたいと思います。
富沢委員	議事(2)のタイトルが、平成24年度の実施状況とありますが、先ほど事務局から次の地域子育て支援事業の説明をしていただきました。
委員長	1～13までの事業の実施状況がどこまで進んでいるか報告されな

<p>事務局 (高田補佐)</p>	<p>いと、次世代のことか、子ども・子育てのことなのか混乱してしまいます。次世代育成支援行動計画の事務局サイドの評価を頂ければと思います。</p> <p>本庄市次世代育成支援行動計画の24年度の実施状況をお示しましたが、最後のページに表2があります。表2でお示した事業は本庄市次世代育成支援事業計画の平成26年度の目標事業量と平成24年度の実施状況です。別紙1の中でお示した事業は、子育て支援法の中で、地域子ども・子育て支援事業として新たにお考えいただく13の事業ということでお示しさせていただいています。設定なしの項目は新しい子ども・子育て支援事業計画に含むべく、検討いただきながら進めていく計画と思います。</p>
<p>富沢委員</p>	<p>表2について 延長保育事業の目標値が293人に対して、実績値が824人という落差はどう説明するのかということが1点で、 病児・病後児保育事業で現在実施しているのが病後児保育ですね。あえて病児を入れたことは病児保育をしようとした方向性にあるということなのでしょうか。</p>
<p>事務局 (中山課長)</p>	<p>延長保育事業は、当初の目標量で、それを現実では上回っているということです。病児・病後児保育につきましては、現在、本庄市で行っているのは病後児保育で、病児についてもできるならばと考えていますが、病後児保育の実績がかなり低いこともありまして、これから子ども・子育て支援事業計画の中に盛り込んでいくかは、この会議の中で検討していただければと思います。市としましては、できるかぎり病児も取り組んでいきたいと思えます。</p>
<p>富沢委員</p>	<p>一般的には実績を見て目標値を作りますが、たまたま計画値を実績値が上回ったということでしょうか。</p>
<p>事務局 (中山課長)</p>	<p>当初に事業計画を作成し、途中で見直しをしていません。計画に書かれている目標値を載せているということです。平成26年度の目標値は、実際には現在上回っているということです。</p>
<p>委員長</p>	<p>平成21年度時点での目標値で、ニーズに対する予測が甘かった。その分、現実に対応できているということだと思います。</p>
<p>澁谷委員</p>	<p>表2の の学童保育ですが、2ページの数値が違っているのと、同じ学童保育のことですが、障害児のところですけども、保育園と同じように障害児についても絞った記述で、実際何人くらい何か所の学童保育所に預けられているのか、その取り組みとか方向性について考えていただければと思います。</p>

事務局 (高田補佐)	数値に関しては確認させて頂きたいと思います。
委員長	確認して次回報告願います。
間庭委員	先ほどの表2の 延長保育事業ですが、この5年間のニーズの変化が顕著で低年齢児のニーズが高まってきました。そういった数字が多少関係していると思われます。ある時期を契機に産休明けから預ける子供がかなり増えてきたことが、目標値と実績値の違いになっていると思われます。
委員長	5年間の経済的な動向も関係あると思われます。市としてはできるかぎりの対応をしたと評価できることと思います。
委員長	量的なものは良いですが質的な対応で、行政側で何か困ったことはないでしょうか。
事務局 (加藤補佐)	延長保育は保育園では全園で実施されています。幼稚園でも実施されているので周知していきたいと思います。幼稚園に預けたい、保育園に預けたいなど多様なニーズに対応できるようにするのが行政の責務だと思いますので、今後も続けていきたいと思っています。
中原委員	利用者支援がありますが、例えば妊婦さんは保健センター、乳幼児はどこというように対応していただく部署が分かれています。母親のニーズも多様と思われるので、ここに行けばわかるというような統括した窓口を作ることが利用者支援だと思います。
委員長	デパートではコンシェルジュというシステムがあります。いろいろな物を買いたいのを、サポートしながら店を案内する。学校の中でもコンシェルジュが入っていて、学生の立場でどういうふうに勉強を進めていくかなどサポートします。これからの会議の展開の中でトータルでどのように進めるのかということだと思います。本庄で暮らすといった時にどのように支援していくか、というところでの必要性があると思います。
中原委員	観光の案内では、おもてなしが一番と聞いていますが、何か民間から学ぶサービスができたらいいなと思います。
委員長	ありがとうございました。では、次に(3)ニーズ調査結果概要について事務局説明をお願いします。
事務局 (矢嶋補佐)	ニーズ調査につきましては、就学前児童の保護者様1,300人、小学児童の保護者様1,200人、小学校、保育園、幼稚園のご協力により無

<p>ワズ・マンコンサルティング 堀澤担当</p>	<p>事に配布、回収をすることができました。回収率を高められましたのは、皆様のおかげで、この場を借りてお礼申し上げます。また、子育て支援拠点にも70部配布いたしまして合計2,570部配布、回収は1,989で回収率は77%となりました。</p>
<p>委員長</p>	<p>資料2-1～2-6を使用して、11/21時点の集計によるクロス集計の状況を説明。(約半数の入力における数値のため参考値として説明)</p>
<p>ワズ・マンコンサルティング 堀澤</p>	<p>資料2-1～2-6の区割りは次の議案の分け方ですね。例えば資料2-6で合計数が西中学校区で59、東中学校区で160と差がある場合は学を分ける際に問題点が出ますか。</p>
<p>岩田委員</p>	<p>入力の途中段階なので何とも言えませんが、最終的に差が出た場合は区域割の検討が必要になる可能性もあります。</p>
<p>ワズ・マンコンサルティング 堀澤</p>	<p>先程、全部で1,989の回答があったとのことですが、問10では集計が913しかないのはどうしてでしょうか。</p>
<p>委員長</p>	<p>先週の21日時点の約半分で入力した時点ですので、中間の数字となります。</p> <p>10分休憩</p>
<p>事務局 (高田補佐)</p>	<p>会議をはじめたいと思います。 (4)区域割について事務局説明願います。</p>
<p>事務局 (高田補佐)</p>	<p>子ども・子育て支援事業計画における「区域」とは、市町村において、地理的条件、人口、交通事情その他の社会的条件、現在の教育・保育の利用状況、教育・保育を提供するための施設の整備の状況その他の条件を総合的に勘案して、例えば、小学校区単位、中学校区単位、行政区単位で、地域の実情に応じて保護者や子供が居宅より容易に移動することが可能な区域(教育・保育提供区域)割が必要となります。</p> <p>区域割の決定ですが、定めた後、教育・保育提供区域ごとに均衡のとれた教育・保育が行われるよう地域ごとの見込み量を定め、その見込みを満たすための施設の整備を行うことが必要になります。</p> <p>これから区域割の検討をしていただきまして、見込み量を定め、その見込みを満たすための施設の整備を決めていく順番になります。</p> <p>次回には決定していただきたいと考えています。</p> <p>本日は皆様から意見をいただきまして、その意見を反映し次回までに修正案をお示ししながら進めていきたいと考えています。</p> <p>区域割1：旧本庄市と旧児玉町を1つとした区域 区域割2：本庄地域と児玉地域を分割した2分割 区域割3：高崎線以北、高崎線以南、児玉地域の3分割</p>

<p>委員長</p>	<p>区域割 4 : 本庄西中学校区、本庄東中学校区、本庄南中学校区、児玉中学校区の 4 分割 区域割 5 : 本庄西中学校区、本庄東中学校区、本庄南中学校と共和小学校区、共和小学校地区を除く児玉中学校区の 4 分割</p> <p>先ほど宮塚委員よりありました意見をお願いします。</p>
<p>宮塚委員</p>	<p>小学校区域を分断するのはどうかと思います。こういう区分は人数を基準に分けるのか、面積で分けるのが良いのか。そのへんは一般的にどうすればいいのでしょうか。</p>
<p>事務局 (中山課長)</p>	<p>区域割をする基本的な考え方は、保護者の方が移動しやすい範囲という考え方で、後は地域の実情に応じてとなります。この会議の中で皆様のご意見を伺いたいということになります。</p>
<p>田邊委員</p>	<p>区割りをすることによって、足りない施設を増設しようという考えでよろしいですか。</p>
<p>事務局 (中山課長)</p>	<p>そのとおりです。その区域の中で重要だというものを先ほどの集計等で調べまして、その中で足りないサービスがどのようなものかこれから調べた上で、どのように解消するか決めていくこととなります。</p>
<p>田邊委員</p>	<p>南中学校区に共和小学校区を入れるのはあまりにも接点がないので無謀だと思います。これで見るとどこの地区も待機児童が無くなっていますが、実際には東小校区、北泉小校区には保育園が少なくて入れません。中学校区と考えるのも相当無理があると思います。全員が車を持っている前提ですね。現実には、保育所に入れずに行き場のない母たちの叫びがあります。何人もの母親が保育園に入れないでいる、幼稚園が延長保育を実施しているので、何とかなっている状況です。この表の中で、どこの保育園が定員がいっぱいとかわからないと、表だけのニーズではなく、設置数はあるけれど遠くて行けないとか、地図に落とすことも必要だと思います。学童保育も増えてきたとのことですが、行きにくいことを考えるとバランスが良くないし、児玉地域では選択肢がありません。小学校区などの区域割りを色々考えると中学校区割りが良いのかなと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>先ほど入りたいけど入れないというお話がありました理由がわかりますか。</p>
<p>田邊委員</p>	<p>希望する保育所が満員のためです。 他の所を紹介されますがそこへ行くとすると往復 1 時間くらいかかってしまいます。</p>

委員長	認識不足なので教えてください。保育所にはバスはないのですか。
田邊委員	あるところもありますが、現実的にフルタイムで働いている場合バス利用はできません。
上野委員	できれば学校区の中の保育園に預けたいのです。
田邊委員	幼稚園が延長保育をしてくれているので幼稚園にシフトしている方もいます。
間庭委員	保育園は各園の自由裁量でやっています。ニーズを見ると入園する前に見学しています。距離とか関係なく、保護者の保育観など選択基準が変わってきています。評判の良いという保育園があればそこに集中する傾向があります。幼稚園が放課後保育とかを取り入れて、利用者のニーズに応えてくれれば全体的な数字は既存の施設でも良いと思います。現状で判断するのではなく、各地域で少子化となっているので将来を見据えた考え方がポイントになると思います。
内野委員	子育て支援センターで情報を得たり、運動会に参加してみたり、昔ほど学区で縛られていないと思います。
高橋委員	子育て支援センターを利用して情報交換をしたり、見学をしている方が多い。幼稚園では3年間、保育園では6年間なので、最初の子の場合は学区に縛られないと思います。
委員長	お母さんたちの利用に対する差はあるわけですか。
岩田委員	幼稚園ごとに方針は違います。
委員長	方針はしっかりお母さん方に伝えられているということですね。
岩田委員	園児から伝わるのが大きでしょう。
高橋委員	幼稚園はホームページが整備されています。訪問する前に情報を得たいのでホームページは整備してほしいと思います。
委員長	全体として、情報を一括し、その情報を市民にどういう形で提供するのかが、そのシステムも課題のひとつです。
田邊委員	今のご意見は熱心なお母さんたちのことで、研究していて車も持っていて、時間的に余裕のある方はどこでも選べます。転入してきた外国人や車を持っていないお母さんは、たまたま住んだ地区の周りがすべて満員ということはよくあります。地域によっては保育園が少なく

	<p>て選べない地区もあるので、細かくやってみないと、万遍なく施設があると思ってしまいますが、そうでない現実もあります</p>
<p>委員長</p>	<p>先程、区割りのところで5案と言っていましたが、将来的に新しく参入してくる家庭が想定できるかとの状況で捉えて設定できるのではないか、増えていく地域と増えない地域で違ったニーズも出てくるのかなと、区割りについて色々な視点から考えていただければと思います。</p>
<p>谷田委員</p>	<p>学校区で今話していますが字別も考えられるのではないのでしょうか。町会、自治会の視点もあります。児玉地域の方は、住んでいる所は少ないし、ある意味かたまっているの、考え方が変わってくると思います。</p>
<p>事務局 (駒沢部長)</p>	<p>子ども会とかを考えると字別も良い反面、例えば宮本町とかは非常に広くて小学校区もいくつもあり、自治会と住居の表示が一致していない所もあります。</p>
<p>谷田委員</p>	<p>七軒町も小学校区が分かれています。同じ校区でも線路を挟んで考え方が違います。距離の問題もあると思いますが、こういう要因をみて保護者の考え方を細分化していかないとと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>谷田委員からありましたように、地域を見る時にどの視点で捉えるのか、人口でやるのか、産業別状況でやるのか、そのへんも踏まえることも必要となってきます。事務局が今回複数案を出したことは評価できていると思います。5案では、南中学校区と共和小学校区を一つにしています。 谷田委員から出された細分化するにはどこまでできるのか、区割りについての考え方を出していただけませんか。</p>
<p>田邊委員</p>	<p>学校を中心に区割りを考えていますが、駅南、駅北の方がしっくりすると思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>既存の状況と将来的な状況の2つの基軸を入れていただきながら、どう分けていくのが良いのか。できるだけデメリットをコントロールできる分け方が懸命かなと思います。</p>
<p>谷田委員</p>	<p>区割りは未就学児を基準にするのか、小学生を基準にするのかどちらを基準にするのかをはっきりしないと区割りの状況が変わります。</p>
<p>委員長</p>	<p>貴重なご意見だと思います。ポイントをどうするのか。未就学家庭の多いエリアは世帯が参入しやすいのであれば施設が集中しなくてはいけないし、先程、南中学校区のところで保育所に入れないというの</p>

	<p>は、転入しやすい状況があり、未就学の世帯が集中しやすいといっても間違いはないと思います。</p>
田邊委員	<p>資料 3-6 を見ると共和小と南中学校で 1,500 人になってしまい、本庄西の 3 倍になっています。施設とかは 3 倍あるかというところではありません。実際には北側に施設がたくさんあります。区割りによって人数比が変わってきます。これから新幹線と高崎線の間で人口密度が増えてくると思われます。学校区の見直しもやっても良いくらいだと思います。</p>
委員長	<p>市の開発とか将来展望をどのように捉えながら、この区割りを考えていくのか、をお願いします。</p>
事務局 (中山課長)	<p>答えになるかわかりませんが、先ほどの区割りのポイントのところ、必ずしも未就学の区割りと小学生の区割りが同じでなくても良く、できるだけ同じにして頂ければ良いので、地域の状況によっては違った区割りを設定することも可能です。</p>
事務局 (駒沢部長)	<p>本庄市は本庄市都市計画の市街化区域ということで一定の要件で住宅が建てられまして、本庄の村部は調整区域で、新しく住宅は建てられません。児玉地域は、上里、神川、美里、旧児玉でひとつの都市計画になっています。旧児玉は調整区域はない状況となっています。農業の振興の指定がある所は家を建てられませんが、そうでない所はどこでも家が建てられる状況です。都市基盤整備が追いついていないので、開発があれば住居も増えますが、今のところそういう計画はありません。何を言いたいかといえば、本庄早稲田の新幹線の駅の所は住宅用地が売りに出ていまして、今後管外から転入されると予想できるということです。</p>
中原委員	<p>本庄市の保育園に上里の方がいっぱい来ています。通勤の関係だと思いますが、遠いところに行ける人と徒歩でなければならぬ人がいますので、あまり小さくしてしまうと苦しくなると感じます。第 5 案も考える余地があるかなと思いました。</p>
田邊委員	<p>5 案だと非常に広い。西中学校区域と比べて、南中学校区・共和小学校区は面積も人口も大きくなりすぎています。修正案として、5 案であれば西中学校区と東中学校区を一つにするとか、だと思います。</p>
委員長	<p>児玉共和ではなく、本庄共和にしたら変わってくると思われます。</p>
内野委員	<p>共和小学校区が南中学校区といっしょになって、本庄に行ってくればちょっとうれしい気持ちもあります。がんばれという気持ちがあります。</p>

委員長	<p>私が思っていたのは、南中学校区と共和小学校区の赤色の所を様々な子育ての特区にしても良いかなと思います。西中、東中の人口増はそれほど望めません。児玉地域も同じだと思います。子育て世代が集まれる要因があるので、10年後15年後を見た場合に良いかなと思います。</p>
田邊委員	<p>本庄市の発展を考えると、早稲田駅周辺の開発が急務だと思いますが、周辺の教育施設が少ないと思います。</p>
委員長	<p>赤色の早稲田駅の周辺は、施設をつくれる場所があるのです。区割りの3分割というのは、西中学校区、東中学校区で一つ、南中学校区と共和小学校区で一つ、それと共和小学校区を除く児玉で3つのブロックです。</p>
間庭委員	<p>これからのニーズは大きい施設でも欠員が見込まれます、あまり区割りにこだわらず、基本的にはわかりやすい区割りが良いと思います。中学校区なら中学校で区割りし、一旦線引きするなど決めて、後はニーズ等によって規模で調整するとか、内容・中身で調整を図る方が具体的だと思います。</p>
委員長	<p>場合によっては、特区ということでも良いわけですね。間庭委員は中学校区ということ、状況を見ながら調整するということですね。</p>
事務局 (中山課長)	<p>5つ事務局からご提案させていただきましたが、2つぐらいに絞っていただいて、データの比較をお示しして検討していただく形でも良いと考えています。</p>
委員長	<p>本日、決定したほうが良いでしょうか。ある程度、仮決定しておいてよろしいでしょうか。</p> <p>行政的な視点、あるいは発展的な視点、また、あるいは風土的な視点が含まれると考えて良いと思います。ひとつの基本的なものとして、生活する場、そのエリアによっていろいろと違ってくると思います。様々なものを見ていくひとつの指標として、区割りを決めたいと思います。事務局から提案されている5つの案にもうひとつ加えるような案、もっと細分化してみるというような、それはなかなか難しい状況があるかと思います。内野委員と谷田委員の発言からもありましたが、子育ての時期によって視点が違うことが、明確になりました。これらを踏まえて、5つの案から2つの候補を選びたいと思います。データの分析状況から検討しなければならないので2つに絞りたいと思います。</p> <p>挙手をお願いします。 案1：0人</p>

	<p>案2：0人 案3：0人 案4：12人 案5：1人 4案を中心に展開し、5案も若干みながら進めていきます。</p>
委員長	<p>区域割について以上ですが、何かございますか。 ありがとうございました。</p>
委員長	<p>では(5)その他について事務局お願いします。 次回の日程につきまして、事務局から提案いただきました。</p>
事務局 (高田補佐)	<p>次回の日程 1月31日 午後1時 職員厚生室で開催します。 正式なご通知は後日お送りさせていただきます。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。何かその他でございませうか。 それでは、前回お渡しできなかった委嘱状についてお願いします。</p>
事務局 (中山課長)	<p>前回、ご紹介できませんでしたでしたが、選出区分が労働者を代表する団体から間仲智久様に委嘱状をお渡しするとともに自己紹介をお願いします。</p>
事務局 (駒沢部長)	<p>委嘱状交付</p> <p>間仲委員 自己紹介</p>
委員長	<p>以上で、本日の議事がすべて終了しましたので、議長の任を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。 今後ともよろしく願いいたします。</p>
事務局 (中山課長)	<p>本日は、長時間にわたり貴重なご意見、ご審議をいただきありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。 以上をもちまして第2回本庄市子ども・子育て会議を終了します。</p>